

学校教育目標

「人を大切に、物を大切に、時を大切に」

～発信力・行動力を身につけ、

自己肯定感を得られる生徒の育成～



継続が「平凡」を「非凡」に変える

「凡事徹底」、桂川中学校の生徒・教職員が大切にしている言葉です。「平凡なこと」「あたりまえのこと」をただ単に行うということではなく、目の前にある平凡なことを誰にもできないくらい極める。また、その時の気分や状況に左右されるのではなく、継続して行うことが大切だということです。

京セラの創始者である稲盛和夫さんが著書「生き方」の中で、次のように仰っています。会社を始めた頃、優秀な人材がたくさん入社してこられたそうです。業績が上がらない時期が続き、そういう人たちは「この会社には、将来がない」と言ってやめていきました。残ったのは、転職する意欲や優れた才能はないが、こつこつ地道に努力する人たちでした。しかし、その人材が10年後、20年後には各部署

の幹部となりリーダーとなっていく姿をたくさん見たということでした。彼らのような平凡な人材を非凡に変えたものは何か。一つのことを飽きずに黙々と努める力、いわば一日を懸命に生きる力です。また、その一日を積み重ねていく継続の力です。すなわち、継続が「平凡」を「非凡」に変えたのです。安易に近道を選ばないで、一步一步、一日一日を懸命、真剣、地道に積み重ね、夢を現実に変え、思いを成就させるのは、そういう非凡なる凡人なのです。ただし、「継続と反復は違う」と仰っています。昨日と同じことを漠然と繰り返すのではなく、今日より明日、明日より明後日、少しでもいいから必ず改良や改善を付け加えていくこと、そうした「創意工夫する心」が自分をより成長させるということなのです。

スポーツでも同じことが言えます。ただ、指示された動作や練習を行っていても技術や技能は身につけません。これは、何のための練習なのか、試合のどの場面の動きなのか、どこの筋肉を使っているのか、常に一つ一つの動作や練習の意味を理解し意識して取り組むことが成長へのスピードを加速させます。一日、一週間単位でみれば微差（わずかな差）でしかありませんが、ひと月、一年となれば大きな差を生みます。

師走一日、自分の目標に向かって、「凡事徹底」頑張りましょう。

「凡事徹底」 桂川中学校 あたりまえ 10か条

1. 「あいさつは 先にする」のが、あたりまえ
2. 「時間（期限）や約束は守る」のが、あたりまえ
3. 「授業は、その1時間を大切にする」のが、あたりまえ
4. 「清掃活動、みんなでやる」のが、あたりまえ
5. 「言葉遣い、きちんとする」のが、あたりまえ
6. 「自分も人も、大切にする」のが、あたりまえ
7. 「人の話は、目と耳と心で聴く」のが、あたりまえ
8. 「決まりごと、守って生活する」のが、あたりまえ
9. 「身だしなみ、ととのえる」のが、あたりまえ
10. 「いじめ・暴力、しない、許さない」のが、あたりまえ

12月の主な予定

1日（火）～後期「人権学習」

9日（水） 新入生保護者説明会

15日（火）～21日（月）

2学期末「保護者懇談会」

23日（水） 西京支部中学校「生徒会交流会」

24日（木） 2学期「終業式」

25日（金）～令和3年1月4日（月）冬季休業

* 1月5日（火）3学期「始業式」